

連携テーマのプロジェクトの令和5年度の取り組みの 強化の方向性

《目次》

- | | | |
|-------------|-------|---|
| ○ デジタル化の促進 | | 1 |
| ○ グリーン化の促進 | | 2 |
| ○ グローバル化の促進 | | 3 |

連携テーマのプロジェクトの令和5年度の取り組みの強化の方向性（1 / 4）

連携テーマ	プロジェクト・取り組み名	目指す姿	現状と課題	令和5年度の取り組みの強化の方向性
デジタル化の促進	ヘルスケアイノベーションプロジェクト	デジタル技術を活用したヘルスケアビジネスを展開する企業を呼び込むことで、ヘルスケアイノベーションを創出する	<p>①推進体制の構築 〈現状〉 (1)高知県ヘルスケアイノベーション推進協議会を設置し、第一回会議を開催（8月） (2)高知県ヘルスケアイノベーションプロジェクトコーディネータを委嘱</p> <p>②支援メニューの検討 〈現状〉 (1)実証フィールドの確保に向けた関係機関との協議開始 (2)支援策の検討（1回/週 コーディネータ会）</p> <p>③創業・事業化に向けた支援の開始 〈現状〉 (1)企業等からの相談受付開始 (2)各相談への支援方針等について、コーディネータ会による検討開始（1回/週） 〈課題〉 (1)プロジェクトの認知度向上と相談企業等の獲得</p> <p>④人材育成 〈現状〉 (1)高知大学ヘルスケアイノベーションコース等による人材育成 〈課題〉 (2)デジタル人材育成に関する県の取組の検討</p>	<p>①推進体制の構築 (1)コーディネータを増員する等、相談受付件数増加への備えと、支援内容の充実に取り組む</p> <p>②支援メニューの検討 (1)企業等が求める各種支援を実行するため、引き続き関係者（市町村・大学・医療機関・庁内各課・協議会委員・コーディネータ等）との協議及び調整に取り組み、実証フィールドの確保と支援策の充実に繋げる</p> <p>③創業・事業化に向けた支援の開始 (1)協議会での議論を経て決定した方針に従い、相談受付及び伴走支援を着実に実行する (2)ヘルスケア分野のビジネスプランコンテストを実施する</p> <p>④人材育成 (1)ヘルスケア産業に携わるデジタル人材育成に関する県の取組について検討を継続する</p>
	アニメプロジェクト	アニメクリエイターやアニメーション関連企業の誘致、集積を図ることで、アニメ産業を創出する	<p>【アニメ関連企業従事者数：13人（R4.9）】</p> <p>①アニメクリエイターを志す若者等の発掘と人材育成 〈現状〉 (1)県内高校生を対象としたニーズ調査（11月実施に向け準備中） (2)デジタルクリエイター育成講座（高知デジタルカレッジ）（11月開講に向け準備中） 〈課題〉 (1)中高生等のアニメ関連産業に対する関心を高めることが必要 (2)アニメ関連企業の人材ニーズの把握が必要</p> <p>②アニメクリエイターやアニメーション関連企業等の誘致 〈現状〉 (1)アニメーション関連企業等から進出についての問い合わせ：4件 〈課題〉 (1)アニメ関連企業の人材ニーズの把握が必要 (2)プロジェクトにより本県への進出に興味を持った企業を、着実に進出につなげるための効果的な情報発信が必要</p>	<p>①アニメクリエイターを志す若者等の発掘と人材育成 (1)中高生等を対象とするアニメ制作体験コースの実施を検討する (2)調査結果に基づき、県内専門学校等におけるアニメクリエイターコースの設置を検討する (3)R4年度の実績や立地企業のニーズ等を踏まえ、デジタルクリエイター育成講座の見直しを検討する</p> <p>②アニメクリエイターやアニメーション関連企業等の誘致 (1)問い合わせのあったアニメ関連企業に着実に立地していただくため、企業の人材確保に寄与する高知デジタルカレッジの内容を検討する (2)補助金等の支援メニュー、人材育成の取組、まんが文化を背景とする豊富な人材といった、アニメーション関連企業に対する本県の魅力を訴求するための広報を強化する</p>

連携テーマのプロジェクトの令和5年度の取り組みの強化の方向性（2 / 4）

連携テーマ	プロジェクト・取り組み名	目指す姿	現状と課題	令和5年度の取り組みの強化の方向性
グリーン化の促進	プラスチック代替素材活用プロジェクト	工業分野や一次産業分野におけるプラスチック代替素材の活用を促進し、グリーン化関連産業の育成につなげる	<p>【製品・技術開発件数：0件】</p> <p>〈現状〉</p> <p>(1)研究開発支援：8件（補助金による支援5件、公設試による支援3件）</p> <p>(2)補助金採択企業5社は県内では比較的規模の大きな企業であり、中小企業のグリーン化製品等の開発の動きはまだ鈍い状況</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1)裾野の拡大を図るため、中小企業の参画を促進する仕掛けが必要</p>	<p>①グリーン化関連産業に参画する企業の裾野の拡大と関連製品・技術の充実</p> <p>(1)製品・技術開発の裾野拡大（補助金の拡充）</p> <p>(2)プラスチック代替素材以外へのプロジェクト拡大</p> <p>(参考)</p> <p>(1)省エネ診断の推進に向けたインセンティブの検討</p>
	グリーンLPガスプロジェクト	高知県の木質バイオマスやマリンバイオマス（海藻等）資源を活用した、グリーンLPガスの地産地消を目指す	<p>①グリーンLPガスの材料となる木質バイオマス、マリンバイオマス資源の供給システムの構築</p> <p>〈現状〉</p> <p>(1)事業者へのヒアリングを実施</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1)今後、バイオマス燃料等の需要の拡大が想定され、タンコロや枝葉、樹皮などの活用も必要となってくる</p> <p>(2)山から搬出される木の全体の流れを踏まえて、樹種ごとのセルロース量を整理し、必要となる木材の量を整理することが必要</p> <p>(3)マリンバイオマスは、既に海洋等にある賦存量のみで安定供給に必要と見込まれる量をまかなうことは困難</p> <p>②グリーンLPガスの生産に向けた県内事業者の育成又は誘致</p> <p>〈現状〉</p> <p>(1)高知大学、早稲田大学へ県内事業者の参画可能性検討のためのヒアリングを実施</p> <p>(2)前処理工程(木や、藻を乾燥させ、すりつぶす工程。バイオマスを食べーフード状にする)において、参画の可能性有り。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1)県内事業者の参画メリットが明確でない</p> <p>③高知県産グリーンLPガス販売事業者の確保</p> <p>〈現状〉</p> <p>(1)高知県LPガス協会、全国大手元売事業者へ販売体制を把握するためのヒアリングを実施。</p> <p>(2)県内事業者は、大手元売りから購入したガスを各エリアごとに設置された充填所でプロパンに充填し、販売している。</p> <p>(3)大手元売りは複数社が競合しており、大手複数社と取引を行う県内事業者も多い。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1)LPガス販売事業者におけるグリーンLPガスの認知度の低さ</p>	<p>①グリーンLPガスの材料となる木質バイオマス、マリンバイオマス資源の供給システムの構築</p> <p>(1)基本構想策定業務を委託し、事業計画策定に向けた取組を進める。</p> <p>ア) 木質バイオマスは、タンコロや、枝葉、樹皮の活用を前提とする。搬出に当たって必要な人役の計算確保の方法や、搬出コスト等、賦存量等について整理し、社会実装に向けた取組の強化を図る</p> <p>イ) マリンバイオマスは陸上養殖や新たな養殖場の作成を前提として検討し、取組の強化を図る</p> <p>②グリーンLPガスの生産に向けた県内事業者の育成又は誘致</p> <p>(1)県内事業者に協力を仰ぐための事業者メリットの創出</p> <p>(2)高知県としての参画可能性の検討も行う。（公設試等の既存研究成果の活用等）</p> <p>(3)全国大手元売事業者等生産を担う事業者の誘致に向けたヒアリング等も継続して実施する。</p> <p>③高知県産グリーンLPガス販売事業者の確保</p> <p>(1)県内事業者に対し、グリーンLPガスに関する理解を促進する。</p> <p>(2)社会実装段階になった際に、スムーズにグリーンLPガスの販売が行えるよう、セミナー等を定期的開催する方針を継続。(セミナー実施回数を増やす方向性で認知度の向上に向けた取組の強化を図る)</p>

連携テーマのプロジェクトの令和5年度の取り組みの強化の方向性（3 / 4）

連携テーマ	プロジェクト・取り組み名	目指す姿	現状と課題	令和5年度の取り組みの強化の方向性
グローバル化の促進	土佐酒輸出拡大プロジェクト	国内での日本酒需要が低下し、生産量が減少する中において、ニーズが高まっている海外市場への輸出拡大を図ることで、土佐酒や県産酒米の生産量を維持・拡大し、県内酒造メーカーの経営安定化と中山間地域の振興につなげる	<p>【土佐酒輸出額：5.1億円（R3）、前年比+85.2%】</p> <p>①外商の拡大 〈現状〉 (1)輸出相談会への参加促進や海外でのプロモーションなどを実施してきた結果、輸出額は、R4は前年を上回る見込み（輸出額上位6社のヒアリング結果） 〈課題〉 (2)さらなる輸出拡大に向けて有望市場での営業活動の強化が必要</p> <p>②商品開発の促進、生産体制の拡充 〈現状〉 (1)商品開発に向けた売れ筋日本酒の市場調査や県内酒の成分分析、県産酵母CEL24の活用マニュアルの作成などを実施 (2)衛生管理・品質の向上、供給力の拡大に向けた県内酒蔵の設備投資への支援を実施（衛生管理・品質の向上、供給力の拡大への補助 R4: 5社） 〈課題〉 (1)海外で求められる品質及びロットへの対応と、輸出に取り組む事業者の掘り起こしが必要</p> <p>③酒米の生産拡大 〈現状〉 (1)県産酒米の栽培指導、現地指導の実施 〈課題〉 (1)県産酒米の利用拡大に向け、産地での品質向上が必要</p>	<p>①外商の拡大 (1)米国、欧州、中国で、現地商社と連携した見本市や現地賞味会等のプロモーションを拡充するとともに、海外食品ビジネスサポーターの活動を強化</p> <p>②商品開発の促進、生産体制の拡充 (1)新たに食品輸出アドバイザーを設置し、新たな商品の掘り起こしや輸出戦略の策定等への支援を強化 (2)新たな事業者が輸出にチャレンジできる場の設置（バイヤー招へい等） (3)輸出実績のある県内外の日本酒の分析結果を踏まえた工業技術センターによる新商品開発への支援 (4)衛生管理・品質の向上、供給力拡大のためのソフト・ハード面での支援（継続）</p> <p>③酒米の生産拡大 (1)県産酒米（土佐麗、吟の夢）の栽培指導、現地指導の実施（継続）</p>
	農水産物・食品輸出拡大プロジェクト	生産現場と流通現場が連携し、輸出先国のニーズを捉えたマーケットイン型の地産の強化、国内外の商社とのネットワークの構築、海外でのプロモーションの展開等を促し、農水産物・食品の輸出拡大につなげる	<p>【ユズ輸出額：4.3億（R3）、前年比+15.8%】 【水産物輸出額(加工品除く)2.6億円（R3）、前年比▲24.8%】 【その他・加工品輸出額：6.8億円（R3）、前年比+8.5%】</p> <p>〈現状〉 (1)ユズ及び加工品のR4輸出額は、展示会出展や海外でのプロモーションを実施してきた結果、前年を上回る水準で推移（輸出額上位20社ヒアリングによる） (2)水産物のR4輸出額は、昨年夏からの中国政府による検疫強化や、国内の需要が強く海外向けの養殖魚が不足していることから前年同様に低調</p> <p>〈課題〉 ①輸出に取り組む事業者や品目が限定されているため、更なる掘り起こしが必要 ②世界的なコロナの影響緩和を見据え、特に有望な市場（米国・欧州・中国）での営業体制の強化が必要 ③輸出先が求める国際HACCP認証レベルの衛生管理の高度化、供給力の向上</p>	<p>①輸出に取り組む事業者・品目の掘り起こし (1)新たに食品輸出アドバイザーを設置し、新たな商品の掘り起こしや輸出戦略の策定等への支援を強化（再掲） (2)農産物卸売市場のバイヤー招へいによる新たな輸出品目や輸出に取り組む生産者を掘り起こし (3)新たな水産加工事業者の掘り起こし（新施設の誘致）及び既存水産加工施設の機能強化</p> <p>②有望な市場での営業体制の強化 (1)米国、欧州、中国で、現地商社と連携した見本市や現地賞味会等のプロモーションを拡充するとともに、海外食品ビジネスサポーターの活動を強化（再掲） (2)有望市場での見本市出展や商社とのマッチング商談会を継続</p> <p>③衛生管理の高度化、供給力の向上 (1)衛生管理の国際認証（FSSC22000等）取得への支援（アドバイザーの派遣等）（継続） (2)生産体制を強化するための設備投資に対する支援（継続）</p>

連携テーマのプロジェクトの令和5年度の取り組みの強化の方向性（4 / 4）

連携テーマ	プロジェクト・取り組み名	目指す姿	現状と課題	令和5年度の取り組みの強化の方向性
グローバル化の促進	土佐材輸出拡大プロジェクト	将来の国内需要の減少も見据え、新たな販路の開拓として輸出拡大への取組を推進し、林業・木材産業の振興につなげる	<p>【県産材製品の輸出货量：1.3千m³（R3）、前年比 78%】</p> <p>①高知米国市場開拓協議会の取組(アメリカ市場へのアプローチ) (現状) (1)当協議会参加事業者による製品規格のインチサイズへの対応（原木サイズからの対応、製材品カットによる対応）に向けた取組実施（トライアル輸出は下半期） (2)年内のアメリカ市場視察に向け調整実施中 (課題) (1)国内向け生産とのスケジュール調整とインチサイズへの対応 (2)アメリカ市場視察に向けた現地情報の収集と調整</p> <p>* 輸出拡大に向けた課題 県内において輸出に取り組む木材関係事業者が少なく、輸出先も韓国、中国の特定企業との取引を基本とする状況から拡大できていない。同エリアでの新たな取引の拡大と合わせて、県内プレーヤーの増加やこれまで輸出実績のない（又は少ない）エリアへの販路開拓に取り組むことが必要</p>	<p>①高知米国市場開拓協議会の取組(アメリカ市場へのアプローチ) (1)当協議会の輸出事業計画に基づき、令和4年度のトライアル輸出、アメリカ市場視察の結果を踏まえた製品の生産・輸出の取組を促進</p> <p>* 輸出拡大に向けたアプローチ (1)引き続き韓国等、現在取引のあるエリアでの販売量拡大に向けた商談実施等への支援に取り組む (2)さらに、輸出エリアの拡大に向け、令和3年の常設展示（3ヶ月間）、web商談の取組が、新型コロナ禍の中、十分な成果に至ることができなかった「台湾」について、桧製品を中心とし再度のアプローチに向けた取組を促進</p>

※「IoT推進プロジェクト」、「スマート林業推進プロジェクト」、「高知マリンイノベーションプロジェクト」、「外国人材確保・活躍プロジェクト」、「インバウンド推進プロジェクト」については、各産業分野の取り組みに位置づけられているため、本シートには記載していない。